

JDF東日本大震災被災障がい者支援いわて本部

JDFいわて支援センター

活動報告



2016年3月9日 JDF東日本大震災被災障害者総合支援本部第5次報告会

支援センターの目的

1. 障害のある方の調査

2. 生活支援

3. 地域につなぐ



支援センターの活動 移動支援



2012年4月～2014年12月まで実施

公共交通機関の状況

公共交通は震災前の2倍以上になったが…



BRT (JRの代替バス)

デマンド交通 (一部地域)

移動支援の状況

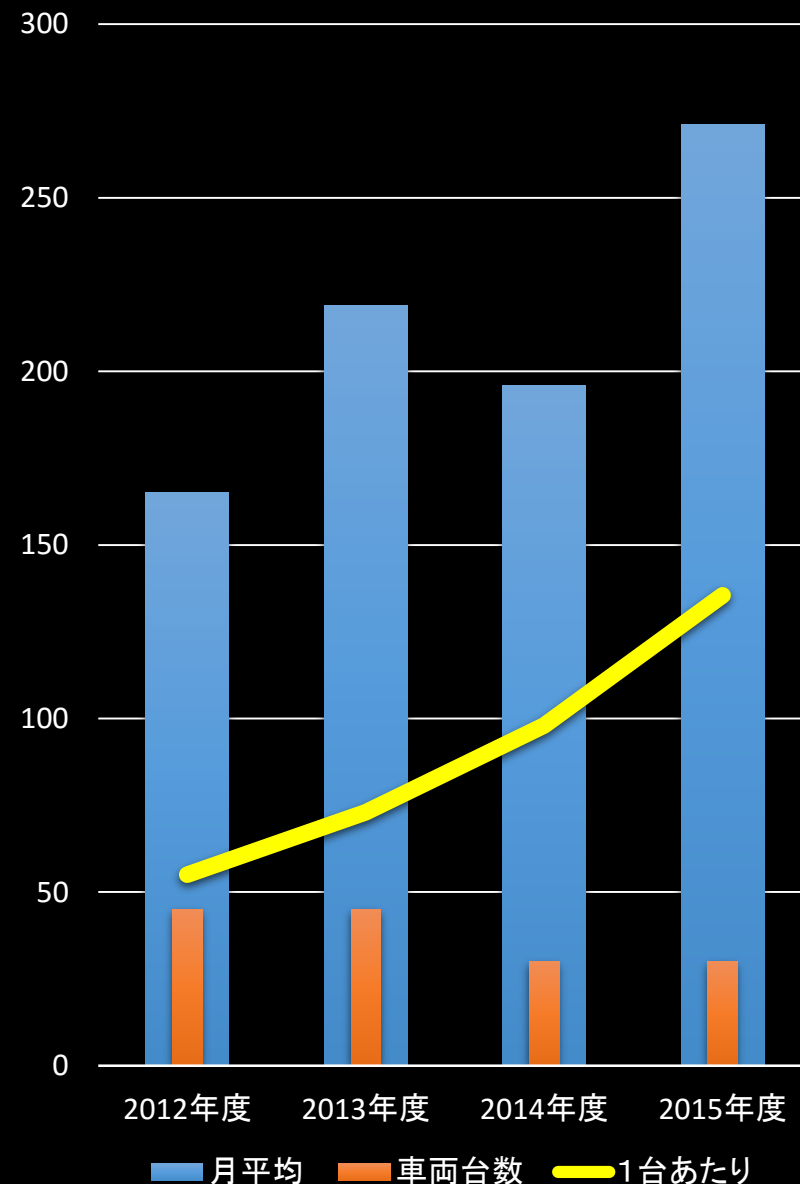
| | |
|----------------|------------------------|
| 2012年度 | 利用件数1,978件 (月平均164.8件) |
| 2013年度 | 利用件数2,622件 (月平均218.5件) |
| 2014年度 (12月まで) | 利用件数1,767件 (月平均196.3件) |

NPO法人への移管後

| | |
|---------------------|------------------------|
| 2015年 (1月～12月まで) | 利用件数3,243件 (月平均270.5件) |
|---------------------|------------------------|



移動支援利用推移



仮設住宅周辺にあるバリア



限られた土地の中、
安全性を確保するため
高台へ仮設住宅を建設

坂道、段差等バリアが
出来てしまう

高台にある仮設住宅への道...



← 矢作小仮設(勾配 約11%)

その差**2倍**

べた踏み坂(平均勾配5.6%) ↓



公共交通のルール(公平性?)によるバリア



JR駅(BRT)は、
仮設から徒歩10分以内を基準とする
ほとんどは従来の駅の場所に設置



バス停は仮設から500mを基準

移動支援について

移動支援は、単なる移動保障の問題ではなく
地域生活保障問題である。

陸前高田市の移動支援は
陸前高田市役所、陸前高田市社協、
JDFから引き継いだNPO法人愛ネット高田で
地域生活の問題として取り組み中

支援センターの活動 地域につなぐ



関係機関との連携 移動支援事業の地元移行

支援センターの活動 訪問調査



2012年7月～11月まで実施 (対象者1,357人)

訪問調査について

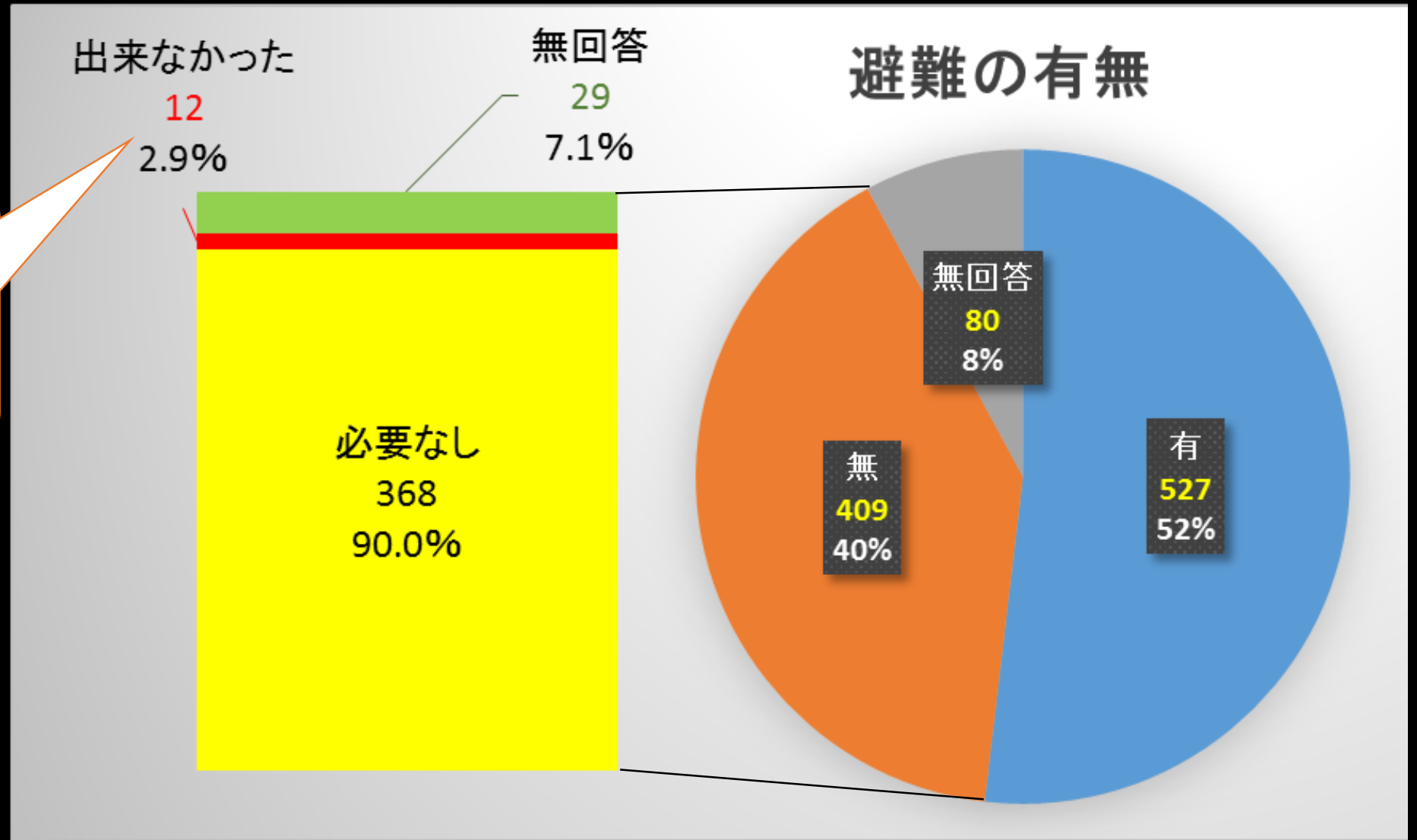
| | | | | | | | | |
|-------|-------------------|--------------------------------------|---------|-------|-------|-------|---------|-------|
| | 336(9/1現在)/40738 | 0.82% | 47/2268 | 2.07% | 2/359 | 0.56% | 42/1742 | 2.41% |
| 陸前高田市 | 1425(8/4時点)/23302 | 無回答[理由:死亡者が多く、マンパワーが足りないので調べることは難しい] | | | | | | |
| | 879(8/3時点)/39578 | 2.22% | 56/2586 | 2.17% | 2/346 | 0.58% | 53/2052 | 2.58% |

東日本大震災では障がいのある方の犠牲は2倍であった。
しかし、陸前高田市は数字は出ず…



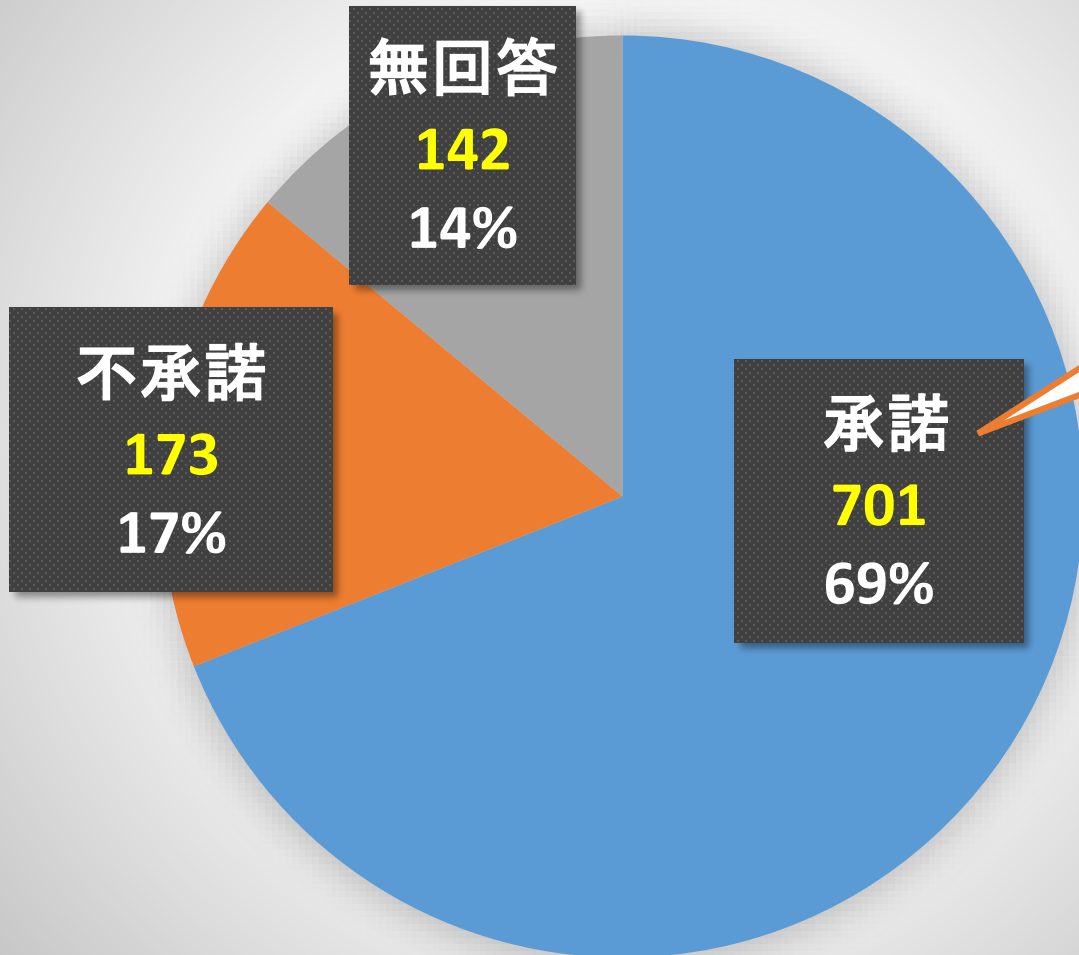
陸前高田市はJDFへ
障害のある方すべての個人情報
開示を行い調査を行った。

支援を必要とする人の被災時における支援に関する実態調査



支援を必要とする人の被災時における支援に関する実態調査

要援護者名簿への登録



逃げる事が出来なかった...等
被災時の経験が
とても過酷だったことの現れ

調査員は伺ったお宅で、
その方が理解できる方法で
災害時要援護者名簿のこ
とを伝えたが、ほとんどの人が
理解していなかった...

この震災後に何が変わったのか？

要支援者名簿への登録の同意

文書で渡される → 自分の事としてとらえるのが難しい

記載個所の多さ → 理解が難しいので放置する

過去の反省が生きていない

障害者の死亡率2倍の事実から何が変わったのか？

検証されていないものに反省はでない

↳ 反省がないものには対策は取られない

↳ 対策がとられない問題は解決されない

↳ 同じ状況で同じことが繰り返される

